

審判上の確認事項

本大会は2026年度 公益財団法人日本バレーボール協会の定める6人制競技規則による。但し、別に定める小学生バレーボール競技規則を用いる。

<ルールの取り扱いについて>

- 1 児童の善い行いに対しては、フェアプレー精神の育成のため積極的にグリーンカードを出してください。
- 2 モップ、チームの荷物は安全のためにベンチ裏、イスの下に置く。スペースが無ければベンチ横でもよい
- 3 靴ひもを結ぶ行為は安全面を確保するため、結び直しをさせる。※ほどけていない靴ひもをほどき新たに結びなおすなど、戦術的な行為は認められない。
- 4 トスは記録席前で試合開始前に行う。キャプテンが立ち会い、キャプテンマークのついたユニフォームを着用する事。トスにて先に権利を得たチームは、サービスを行うか、レシーブを行うか、または、どちらのコートに入るかを選択する。監督及びチームキャプテンは、公式練習前に記録席で、記録用紙に氏名を記入する事。また、チームキャプテンは、試合終了後も速やかに記録用紙にサインする事。
- 5 公式練習はサービスを得たチームから行う。公式にエントリーされた選手以外は公式練習に参加できない
- 6 サービスは、決められた順序に従って打つ。間違いがないよう、ベンチスタッフも十分注意する。
- 7 スクリーンについて、1stレフェリーは選手の位置をよく確認してから、サービス許可を行う事。
※戦術的にスクリーンを形成する事を許さない。スクリーンに関する注意は何度も行う事ができる。
- 8 監督は、自チームのアタックラインの延長線上からウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で、立ちながらでも歩きながらでも指示を出すことができる。この時、ラインジャッジの視界遮ってはならない。
※ラインジャッジに対する批判・暴言は現に慎む。ケースによっては罰則の対象となる。
- 9 明らかに選手・チームを威嚇する行為、反スポーツマン行為(暴力)や言動に対しては厳正に処理する。
※失格・退場など
- 10 1セットにつき12回までの選手交代が認められる。ラリー中交競技者はベンチに着席しているか、ウォームアップエリアに位置している事。2ndレフェリーは記録を確認し、11回目と12回目の選手交代を1stレフェリー及び監督へ通告する。
- 11 レフェリーに対する質問はゲームキャプテンのみに認められる権利である。要求する権利のない者が要求した時など、タイムアウト及び競技者交代の不当な要求は拒否される。また、プレーに影響を及ぼしたり、同一の試合中に同一チームの競技参加者が不当な要求を繰り返した時はそのチームを試合の遅延として処置する。
- 12 アンダーウェアは着用しても良い。(チームメンバー全員が着用する必要はない。
- 13 髪の毛がネットに触れた場合、絡みついたりしない限り反則としない
- 14 試合の継続危険な状況であるとレフェリーが判断した場合は、ラリーをノーカウントとする。
※隣のコートよりボール・選手が試合をするコートに侵入した。ネット際でなんらかの事情で選手が負傷した場合など
- 15 ラリーの継続については競技エリアのみで可能であり、小学校体育館におけるフリーゾーンは、隣接するコートのサイドライン(延長線上)までとします。※那覇市民体育館等の場合は状況を確認し都度検証する。
※ケガ防止のため、隣接コートのサイドラインをボールもしくは選手が超えた時点でアウトとします。
- 16 競技者が負傷して例外的な選手交代をした場合、負傷した選手は、その試合に復帰することはできない。
- 17 必ずワイピング(タオル)を準備し、試合中コート内の選手は、床の汗を拭き取る事。
※トスの際に審判より必ず伝える事。ボールに付着した汗の拭き取りなどはその都度審判に申し出る事。
- 18 ベンチスタッフの服装は襟の有無は問わない(Tシャツも可、ただしチームにて統一する事)
※タンクトップのような形状のシャツ類、短パン、ハーフパンツは許可されない。ただし夏場など空調設備がない施設においては都度調整を行い許可する。

<レフェリーについて>

- I 予選リーグ及び決勝トーナメントの審判員の配置については、抽選会後に周知致します。
予選及び決勝トーナメント(1日目)については、各ブロックの空きチーム・負けチームにて相互審判となります。決勝トーナメント(2日目)第一試合については、第三試合(場合によっては第二試合)のチーム、以降決勝戦を含め負けチームにて審判・補助員よろしくお願ひします。
※公認審判資格(C・B級)を持つ方は、2日目以降のご協力をお願いします。
※補助員については、極力ユニフォーム(試合と連続して審判を行う際は臨機応変に対応する)では行わない事。ラインジャッジについてはチーム内で育成・指導を行う事。
- II 1st・2ndレフェリー・記録員はサービス順の確認に注意を払う。
- III 1stレフェリーは試合の最終決定者であり、副審・ラインジャッジの判定を総合的に判断しジャッジする事。
但し1stレフェリーは、取り扱いの疑義について、レフェリーの判断でコントローラー/審判長/副審判長の意見を聞く事ができる。

